

◇テーマ「農業×アパレルで目指す循環型社会！」

秋田県のえだまめは、平成27年、28年、令和元年に、東京中央卸売市場の出荷量日本一になりました。出荷量だけでなく、多くのオリジナル品種もあります。そして、何ととっても、とてもおいしいです。

私たちは、このえだまめを地球温暖化防止に役立てられないか考えました。そこで注目したのが、えだまめを商品として出荷した後の、葉や枝です。これは、ただ捨てられてしまいます。生産量が多くなればなるほど、このような廃棄物が多く出ます。これを何かに利用しない手はないと考えました。

私たちは、このえだまめ廃棄物を、「スーツ」に利用することを考えました。そして、農家とアパレルメーカーを結んで、社会や経済を回し、循環型社会を作ること考えました。

具体的には、



①秋田県で盛んに生産されている枝豆を原料として生地を作ります。枝豆の茎や葉は使わずに廃棄されてしまうので、その部分を利用して繊維にして布をつくります。資源を無駄にせずすみ、SDGsにも貢献することができます。



②生地を染めるには、地域のカフェなどから出るコーヒーのからや、廃棄野菜を使います。ここでも廃棄物を無駄なく利用することができSDGsにつながります。



③また、ボタンにもこだわります。お米の中の食べられないものや売ることのできないものを有効活用するために、お米でボタンを作ります。それは、地産地消と地域活性化につながります。



④そして最後は、枝豆の茎から出来たスーツを自然へと返します。着られなくなったり、いらなくなったりしたスーツを回収し土に埋めて肥料とします。元々、植物ですので、腐って有機肥料となります。そして次の年、枝豆栽培の肥料として利用します。これで、完全循環型スーツができます。



現在私たちは、この完全循環型スーツ「えだまめスーツ」のアイデアを、地元のスーツ製造メーカーである「大同衣料に」提案しています。「大同衣料」は私たちのアイデアを真剣に受け入れてくれ、秋田県総合技術センターや秋田高専と共有し、実現に向けて動き出しているそうです。2050年には、きっと実現していると思います。地球温暖化防止のための循環型社会と同時に、地域活性化も目指しています。